

飛鳥 ASUKA KAWARABAN
かわら版

2023年
11月

秋晴号

第212号

発行所 株式会社 飛鳥 出版室
発行人 永野 正将
ADD: 〒780-0945 高知市本宮町65-6
TEL: 088-850-0588
MAIL: info@asuka-net.jp



秋の空の下で…
心地のよい陽気に包まれて
常連たちの憩いの場は
なんとも楽しそう

表紙写真撮影（高知県須崎市野見潮ばかり公園）：株式会社 飛鳥

もくじ

新聞余話②	大澤重人	02
おのころじま奮染記 30	田島征彦	03
日本からの眺め②	氏原名美	04
SF小説のおはなし		05

広告	06
ちくんの釣り日記、 さもないこと③	永野雅子 08

2019年版の『毎日新聞用語集』が手元にあります。新聞社を退職した年のものです。

表紙の色から通称「赤本」。体裁や色は違いますが、一般にも販売されています。アマゾンのクチコミをみたら《詐欺だ 辞書と呼べるような代物ではない》と最低点が。それもそのはず、辞書ではなく、記事を書く際の用語や決まりごとを示したものです。常用漢字を基準に、使用できる漢字も定められ、そうでない漢字には必ずルビを振ります。

記事を書く際に手元に置いて、どの漢字を使うか、送り仮名をどうするか、などを確認するため、手あかで汚れるくらい引きます。

よく迷ったのは「交」か「混」か。試しに引いてみます。

《交（とけあわないまじり方）入り交じる、サバにアジが交じる……混（とけあうまじり方、容易に元の状態に戻せないまじり方）異物が混じる、酒に水が混ざる……》

これにより多くの記者がどんな記事を書いても、同じ様式で統一される仕組みです。今は、パソコン上で指示をすると、赤本に違反した箇所が一目でわかるようにな

新聞余話② 大澤 重人

細部に宿る「矜持」



用語を定めた毎日新聞の通称「赤本」

り、紙の赤本の出番は減っています。他の新聞社も、同様の基準を定めています。

勤務先の渡来人歴史館（大津市）がリニューアルされ、新聞社の取材を受けました。16世紀末の豊臣秀吉による朝鮮侵略のパネルもあり、記者には「朝鮮侵略では……」などと説明しました。しかしながら掲載紙面を見ると、《朝鮮出兵》と言い換えられています。

私も新聞社時代はそう書いていました。多くの歴史用語は用語集ではなく、社内の積み重ねてきた「蓄積」などによります。

秀吉の侵略では、数十万人の朝鮮人が殺され、貴重な文化財が壊

されました。この「出兵」が16世紀では、世界最大の戦争だったと知り、「出兵」から醸し出される、戦いの「小ささ」みたいなものに違和感を抱き、今は《朝鮮侵略》と表現を改めています。自衛戦争でない、その悪質性も示せます。

かつてこの国の新聞は、戦争で惨敗しても《転進》とごまかし、全滅すると《玉砕》と美化するかのような表現を使いました。国民の間に反戦気分が起らないよう政府を支え、国の滅亡寸前まで追い込んだのです。

岸田政権は2022年末に安保3文書の改定を閣議決定し、敵基地攻撃能力の保有を打ち出しました。政府はその際、敵基地攻撃能力を《反撃能力》と用語を改めました。相手国がミサイル発射前でも攻撃に着手したとみなして、攻撃する可能性もあり、反撃では到底ありえませんが、政権寄りの報道が気になる昨今ですが、その後も、新聞は《敵基地攻撃能力（反撃能力）》などと併記を続けています。

新聞社の矜持きよつじを感じます。私が今、違和感のある表現は「処理水」です。地元の理解を得るとの約束を果たさないまま、海に流し始めました。「科学的観点から何ら問題ない」と強調されても、放射性物質はゼロではありません。政府はIAEAの包括報告書を頼みとしますが、原子力市民委員会（大島堅一座長）は「海洋放出の『科学的根拠』とはならない」との見解を発表しています。

福島原発事故の重大・深刻さを強調すると、被災地・福島復興の妨げにつながりかねないことが、報道する側を及び腰にしているのではないでしょうか。確実に言えるのは、海洋放出により福島に新たな被害を人為的にもたらしていることです。

一連の「処理水」報道から、新聞社の矜持きよつじを感じますか。



大澤 重人

おおざわ・しげと

渡来人歴史館（大津市）
専門員、元毎日新聞高
知支局長

近著に『咲くやむくげの花―朝鮮少女の想い難いで』（富山房インターナショナル刊）

おのころじま の 大奮 染木記

ふんせんき

30.「なきむしせいとく」その1

田島征彦

を思うように動かすことができない上、異常なほどの泣き虫でした。そんなぼくが、一九四五年の堺ではなく、沖繩にいたら

払い、隠れる場所もない戦場になったのですから、思っただけで恐ろしいことです。ぼくは母親に付いて泣きながら

物さえも奪われるのです。

型染めで描くのですから、型紙へ下絵を写す間も、型で彫りながらも、恐ろしい想像で気持ちを落ち着かせることができません。さすがに、型紙の上からノリを置く時は、緊張して想像することを頭から追い出してしまいました。

爆撃で倒れる人、たくさんの死体、そんな姿を型紙に彫り出し染めていくのです。

こんな凄惨な絵本を子どもたちが見てくれるのだろうか。絵本作りの気持ちが揺らいでくるのでした。



ぼくは一九四〇年に、大阪の堺で生まれました。物心がついた頃には、日本はアメリカと戦争をしていて、それも、もう日本は力を使い果たし、負ける寸前でした。だいぶ前から、アメリカの戦闘機が大きな都市への空爆が始まって、ぼくも恐ろしい目に合ったことを、今でも思い出されます。

沖繩戦のことを、絵本で子どもたちに伝えようと考えてきました。「てっぽうをもったキジムナー」のために取材を重ねていたころでした（一九九〇年ごろ）

ぼくは生まれてすぐに、腸炎という大病を患い、身体の弱い子供でした。すぐ転ぶし、身体

という発想が浮かびました。

小さな島に、何十万というアメリカ兵や戦車や装甲車が上陸してきて、家や草木までも焼き

逃げ惑うのです。思いもつかない

ことが次ぎつぎと起きます。目の前で母が殺され、守ってくれるはずの日本軍に追い立てられ、食べ



田島 征彦
たじま・ゆきひこ
染色家・絵本作家

大阪府堺市出身。少年時代を高知県で過ごす。京都市立美術大学染織図案科専攻科修了。一九七八年『じごくのそうべえ』で第一回絵本に『ぼん賞』。二〇一五年『ふしぎなともだち』で第二十回日本絵本大賞。沖繩の子どもたちを主人公にした「やんばるの少年」の次には沖繩戦を題材に、子どもたちに、戦争のことを、平和の大切さを伝える絵本「なきむしせいとく」が二〇二三年度の講談社絵本賞を受賞した。

※「おのころじま」は淡路島の古代のよび名

日本からの眺め②

キルギス、中央アジア、ユーラシア:

氏原名美

国籍と出自

— 変えられるものと
変わらないもの —

キルギス人、といってもキルギス国籍者を意味する場合と国籍に関係なくエトノスとしてのキルギス人を指す場合がある。前者にはもちろんキルギス系キルギス人もいれば、ウクライナ系あるいはロシア系キルギス人もいて、後者にはディアスポラの人々も含まれる。

八〇の民族が暮らす多民族国家キルギス、などと言われるが、学生たちに聞いても出てくる民族名はせいぜい十五か二〇ほどだから、もしかして八〇の八は日本やおよそでいう八百万やおよそ、「極めて数が多い」の意かと思ったりする。

娘の夫が昔、同僚の一人に「アルメニア人だっけ？」と尋ねたら、「俺はアゼルバイジャン人だ、ムスリムだ！」と、まるで喧嘩腰の答えが返ってきたそうだ。娘の夫

にしてみれば、うる覚えだったからちよつと聞いただけで、両民族の歴史や領土紛争に無知だったわけでもない。少し濃い目の風貌ならコーカサス、というステレオタイプが無意識に作用して同僚を傷つけてしまったのだ。

世界は国境や国籍で地域も人も線引きされているが、個人的なアイデンティティはそんな政治的な区切りとは別のものに支えられているのだろう。

かつてはキルギスははじめ旧ソ連諸国でパスポートといえ、それは旅券ではなく身分証明書のことだった。今ではIDカードに姿を変えているが、原則十六歳で申請し取得するのは昔と同じだ。十五の共和国に散らばった住民を国の枠ではなく民族で把握しようとしたソビエト時代の名残で、氏名や生年月日のほか自己申告による民族属性も記録されている。

父系と母系でルーツが異なっている、ほとんどが父と同じ民族名を登録する。キルギス国内でキルギス系と自認する人口は、二〇世紀半ばにはロシア系とウクライナ系を合わせた人口

とほぼ同じく四〇%だったが、昨年の統計では七五%と他を圧倒している。ウズベク系十五%、ロシア系五%、ドゥンガン系とウイグル系がそれぞれ一%と続く。スターリンによって中央アジアに強制移住させられた人々の子孫である朝鮮系、タタール系、ドイツ系も、合わせて五万人を数える。

ここで民族属性とした元の語は英訳すればナシヨナリティだ。だから、学生が留学など日本向け申請書類の国籍記入欄に国名ではなくウズベクとかロシアとかの民族名を書き込んでしまったりする。勘違いというより、帰属先の自己規定が曖昧だからではないだろうか。

キルギス国籍でなくても永住権が保障されていれば、国会議員や公務員を目指す必要を感じないようだし、逆に、キルギス国籍者が就職に便利という理由でロシアやカザフ、バルト諸国の国籍を取得しようとする。住民が共有しているのは国民意識というより多民族を包摂した「同郷人」感覚ではないかと思う。しかし、互いの民族属性を尊

重しあって国がまとまっているうちはいいが、国際紛争でも勃発すれば、途端に同郷人意識も怪しくなつて、敵対する国家を想起させる民族名を持つ人々の排斥が始まったりするから厄介だ。

日本では日本国籍ではないノーベル賞受賞者が、実際には「日系英国人」とか「日系アメリカ人」なのに、単に「日本人」と紹介される。日本国籍を取得した教え子の一人が事業を拡張しようとして大手銀行に融資を申し込もうとしたら、「国籍はともかく、生粋の日本人じゃないですからね」といって門前払いを食らったそうだ。国籍より出自が大事、ということだろう。その姿勢が区別ではなく差別につながらないことを祈るばかりだ。

氏原 名美

うじはら・なみ

ピシケク国立大学東洋国際関係学部特任教授。越知町出身。北海道大学卒。



ピシケク市街からアラトー山脈を望む (写真:Saijo Y.)



皆さん、SF小説は好きでしょうか？

SFとは、サイエンスフィクション (Science Fiction) の略語であり、科学的な空想にもとづいたフィクションの総称です。(Wikipedia参照)

最近折に触れて読み始めたのですが、面白いと評判の名著が沢山あるので、なかなか読みきれずにあります。

今回ページをいただきましたので、面白かったSF小説をご紹介します。したいと思います。

紹介1

「われはロボット〔決定版〕」

アイザック・アシモフのSF小説短編集です。刊行は1950年。ロボットSFの名作です。特に作中に出てくる(ロボット工学の三原則)は後に生まれる作品にも影響を与えています。映画『ROBOT』の原作でもあるので、



「われはロボット〔決定版〕」

発行所：早川書房
定 価：1,012円(税込)

なんとなく知っているといる方もいるかもしれませんが、映画は内容が結構違います。それはそれで面白かったです。

さて、その三原則とはこちら。

第一条 ロボットは人間に危害を加えてはならない。また、その危険を看過することによって、人間に危害を及ぼしてはならない。

第二条 ロボットは人間にあたえられた命令に服従しなければならない。ただし、あたえられた命令が、第一条に反する場合は、この限りでない。

第三条 ロボットは、前掲第一条および第二条に反するおそれのないかぎり、自己をまもらなければならない。

作中のロボットはこの原則に従わなければなりません。皆さんは読んでみて、何かおかしな部分がないか、

あると思いますか？この特に何も問題がないようにみえる三原則を基盤にした物語が9つ収録されています。意外と色々問題が起きてしまうのです…。

短編なので一話ずつ読み進めやすいのも良いところです。

物語はロボ心理学者スーザン・キヤルヴィンのインタビュアーから語られます。子守り用ロボットの話『ロビイ』、人の心が読める？ロボットの話『うそつき』、そして見た目が人と変わらないロボットが製造出来る時代に、人間ではなくロボットではないか？と噂される地方検事バイアライが出てくる『証拠』などがあります。

今から73年前にこのような物語が刊行され、今読んでも新鮮な発見があることに驚きます。

近頃話題のAI(人口知能)について、本を通じて一考してみても良いかもしれません。

紹介2

「プロジェクト・ヘイル・メアリー (上・下)」

映画『オデッセイ』の原作「火星の人」を書いたアンディ・ウイラーのSF小説です。この本についてはあらずじを語ると初見のワクワク感が損なわれてしまう恐れがあるため何も言えませんが…とにかく面白いです。

内容は語れませんが、各表紙の宙を漂う宇宙服や宇宙船のイメージが作品を丁度良い情報量で表現してくれています。

どうなる？どうする？というハラハラドキドキ全部楽しめる作品だと思います。表紙からしてシリアスですが文体は非常にユーモラスで、終盤には読み終わるのを名残惜しく思うことも…。

こちらも映画化するそうなので、その前に一読してみたいかでしょうか？ オススメです。



「プロジェクト・ヘイル・メアリー (上・下)」

発行所：早川書房
定 価：各1,980円(税込)

従来はオフセット印刷が主流だった白版印刷。一定の部数以上でなければ利用出来ないものでした。

クリアも白も、手軽にPODで!

Print on Demand

名刺・DM・フライヤー・パンフレット・POP・カード・封筒など…個人や仕事にかかわらず
クリアやホワイトをデザインに取り入れて Original / Premium / Stylish / Variation
「より魅力的なアイテム」制作、試してみませんか?



クリア印刷



ホワイト印刷

ニスやラミネートのような光沢感のクリアトナー。デザインの上での光沢コーティングや、コピーできないという特徴から偽造抑止に活用など、使用方法はアイデアの数だけ広がります!

黒や濃色のメディアに白でデザインや文字を印刷することで特別感のある印刷物に! また、特殊メディアとの相性バツグン! アルミ蒸着紙などのメタリック調を活かしつつデザインすることも可能です。

必要な時に必要な数だけ
という「**おトク**」

必要なアイテムを必要な数だけ。
足りなくなればリピートもカンタン。
【小ロット/低コスト/短納期】を
可能にするPOD活用のご提案です。



RICOH Pro C7200SHT

多彩な用紙で、多彩な表現を。 普通紙やコート紙のほか、凹凸紙などに対応。立体POP、リーフレット、メニューなど、多彩な活用はアイデア次第! ※紙によって印刷相性があります。事前にご相談ください。

幅広い用紙サイズ 100×139mm~330.2×487.7mmまで対応。さらに長尺印刷(片面時)は、最大1,260mmまで対応し、A4三つ折りのパンフレットや店頭バナー等も制作可能です。

中綴じ製本 小ロット(1冊~)からOK!表紙と本文の紙替なども対応可能です。
※最大20枚(80p)程度まで(用紙種類、紙厚などのご使用条件によって異なる場合があります)

封筒への印刷OK! フルカラー印刷のオリジナル封筒など、小ロットから印刷できます。
※セロハン窓等の熱で溶ける仕様のものはプリント不可です。



お問い合わせ・お見積もり・ご注文は……………株式会社 飛鳥まで

お気軽にご相談ください

その ホームページ

うちで作りましょうか？



WHAT!?

簡単操作！
ブラウザ上で
そのまま編集！

レスポンス
対応デザイン
続々登場

ブログ
メールフォーム
ECショップも
簡単設定！



ここがスゴイ！

ホームページの知識は必要なし！初心者でも安心の簡単操作♪



ダイレクト
編集



コンテンツ
パーツ



豊富な
デザイン



Google
ツール



<https://a-tool.jp>



動画でCheck!
※動画はWEBサイト
でもご覧いただけます。



私たち、株式会社 飛鳥は SDGs (持続可能な開発目標) に 取り組んでいます。

実質再生可能なエネルギー100%の電力を
確保し、環境への配慮を実施しています。



ちーくんの釣り日記



YouTube スマホでも
あすか日記
ぜひ、ご視聴ください!
 チャンネル登録をお願いします!

第14話

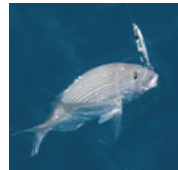
釣り好きなおんちゃんのお休日

すっかり秋めいてきました!
 コロナ禍に1000魚種目指してスタートした「ちーくんの釣り日記」も

コロナ明けの忙しさにかまけてめっきりと頻度が下がってしまいました。そんなこんなで、とある休日に「ぼっち釣行」を撮影しました。なんてことのない、釣り好きなおんちゃんのお休日“を配信しただけですが、よければご覧ください。

今後とも気長にアップしていきますので、よろしくお願いたします。

今回の達成魚種
 なし
 トータル
43
100
 魚種



七、もたないこと ③

昔の暮らし

永野 雅子

大学生の孫娘から、「高齢者から昔の暮らしぶりを聞いて、それを論文にまとめて提出するという課題が出たので、おばあちゃんよろしく」と、LINEが来た。「社会調査方法論」で、何項目かの質問に答える形式。戦後の暮らしや、どんな少女時代で、一番の思い出は? など多岐にわたる。

そこで、戦後の、日本中が貧しい耐乏生活の中、おやつはお芋ばかり、それも食べられない人がいたこと、下駄履きで、栄養失調の子どものも多く、バナナなど減多に口にするごとはなかったし、卵焼きもごちそうだったこと。
 小学校の時、シラミが発生して、子どもたちは校庭

に集められ、DDTを頭から散布されたこと、給食はアメリカから支給された脱脂粉乳で、鼻をつまんで飲んだこと、また、学校から帰ったら弟妹の守りや、井戸水汲み、風呂焚き(特に風呂は別棟にあったので冬や雨の日は大変だった) など、家事労働を手伝うのは普通だったことなどを書いた。

今のように家電製品などなかったから、7人家族の家事で母親は一日中働き詰めであった。だから遊びたくても家事手伝いの文句など言えなかったのだ。
 冷蔵庫もない時代、夏に井戸で冷やしたスイカやトマトの美味しかったこと、家に一台だけあったラジオで「笛吹童子」を聞くのが楽しみだったことなど、思い出しながら書いて送ると、即座に質問。

まず、DDTとは?
 お風呂が別棟とはどうい

うこと?
 脱脂粉乳はどんな味? 給食はそれだけ?
 両親から戦争の話は聞いた?

そうか、私たちは孫たちには想像もできない暮らしをしてきたのだ。今のようにお風呂の中からボタン一つで温度設定ができる、冷蔵庫には世界中から来た食品が入っている、ラジオも電話も辞書も地図も搭載されたスマホなるものを常時携帯して、便利この上ない暮らしを当たり前で、感謝の対象にはなっていない彼女たちに、昔、おばあちゃんによく言われた「そんなことでは、おてんとうさまのパチが当たるよ」の言葉を贈りたい。

たぶん、「何、それ!」って言うだろうね。



永野 雅子
 ながの まさこ
 株式会社 飛鳥
 常務取締役
 著書「わが家の太郎」

「飛鳥かわら版」は、あらゆる世代の自分史・個人誌作りを応援しています。

飛鳥かわら版 第212号【秋晴号】 飛鳥出版室
 ●発行所: 株式会社 飛鳥 ●発行人 永野 正将
 ●住所: 〒780-0945 高知市本宮町65-6 ●電話: 088-850-0588
 ●メール: info@asuka-net.jp ●ホームページ: https://www.asuka-net.jp